

平成 30 年 6 月 19 日現在

機関番号：20105

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K11508

研究課題名(和文) 小児看護OSCEにおける課題のピアレビューとネットワークの構築

研究課題名(英文) Peer review and network construction of Child Health nursing OSCE

研究代表者

三上 智子(MIKAMI, Tomoko)

札幌市立大学・看護学部・講師

研究者番号：70452993

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、小児看護OSCEの実施状況を把握すること、さらに小児看護OSCEの一般化に向けた研修会開催へのニーズを明らかにすることを目的とし、平成27年11月から12月に、日本看護系大学協議会会員校247校を対象として、自己記入式調査票を用いたアンケート調査を実施した。その結果から、小児看護OSCEの実施率は8.7%であることがわかった。また、OSCE実施施設の取組も明らかになった。研修会への参加希望は63.0%で、6つの研修会ニーズが抽出された。小児看護OSCEを実施している大学は少数であったが、看護実践能力を育てる教育方法として、小児看護OSCEの取組に対する関心の高さが伺われた。

研究成果の概要(英文)：This study aimed at grasping the actual situation of efforts of pediatric nursing OSCE and aimed to extract needs of workshops for generalization of pediatric nursing OSCE. In November to December 2015, an unsigned self-record survey was conducted for 246 children's nursing faculty members (1 person / school) of the nursing-related university association school. The collection number (rate) was 93 (37.7%). 9 colleges (9.7%) of universities (implementation rate) of pediatric nursing OSCE were implemented. The openable nursing care nursing OSCE task was nine. The participation in the workshop was 63.0%, and six workshop needs were extracted. A small number of pediatric nursing OSCE enforcement universities were held, some universities are considering introduction in the future, and it is said that they are interested. The pediatric nursing OSCE implementation college followed the basic style.

研究分野：小児看護

キーワード：小児看護 OSCE課題 ピアレビュー ネットワーク構築

1. 研究開始当初の背景

札幌市立大学看護学部では、2006年度の開学当初から、学生が段階的かつ確実に看護実践能力を修得できるよう、カリキュラムの充実と教育・評価システムの構築をめざしてOSCEを採用した。本学では、「育てるOSCE」をモットーとし、試行錯誤を繰り返しながら汎用可能なスタイルの確立を目指してきた。

しかし、OSCEの方法については、未だ一般化に至っていない。小児看護OSCEにおいても、OSCE課題の到達目標を達成することができずにいる。迫田ら(2011)が報告した看護実践力を育む教育方法開発の経緯からも、試行錯誤しながらOSCEに取り組んでいる様子が伺える。

三上ら(2014)が日本小児看護学会第24回学術集会において実施した予備調査(n=82)によれば、現在、小児看護OSCEは、日本赤十字広島看護大学をはじめとする看護基礎教育施設2~3校が取り組んでいることが把握された。その経験やノウハウをお互いに評価・検証していくことで、小児看護OSCEを一般化させることができると考える。しかし、現在、小児看護OSCEが日本全国でどのくらい実施されているか、またどのように実施されているか等について、詳細が明らかではない。

2. 研究の目的

本研究の目的は以下の2点である。

(1) 札幌市立大学看護学部が、過去に蓄積した「小児看護学領域客観的臨床能力試験(以下、小児看護OSCE)」のノウハウを、日本全国で小児看護OSCEに取り組んでいる、あるいは今後実施予定の看護基礎教育機関へ提供するための基礎資料を得る。

(2) 看護基礎教育の学生が、看護専門職としての看護実践能力の向上を目指すような教育を継続的に実践していくため、小児看護OSCEのネットワークを構築する。

3. 研究の方法

(1) 日本看護系大学協議会会員校247校の小児看護学担当教員(1人/校)に無記名自記式調査を実施した。調査項目は27項目であった。最初に、小児看護OSCEの実施の有無、実施していない大学には、実施予定について質問した。次に、小児看護OSCEの実施状況について、実施大学に絞り込んで質問した。質問項目は、実施目的、実施学年、実施時期、実施人数、実施課題、模擬患者使用の有無などであった。また、研修会への参加意思や研修会ニーズを質問した。

(2) 平成27年度にホームページを作成し、平成29年度に情報提供システムの構築を図った。

4. 研究成果

(1) 調査結果

小児看護OSCEの実施状況

調査票の回収数は93、回収率は37.7%、有効回答数93、有効回答率100%であった。小児看護OSCEを実施している大学は93校中

9校(9.7%)であった。今後、小児看護OSCEの取組みを予定している大学は、25校(26.8%)であった。

小児看護OSCEの取組みの実態

1) 小児看護OSCEの取組み

小児看護OSCEを実施している大学9校において、実施の目的は、実習前の技術チェック・学年到達目標評価が7校(77.8%)、成績評価が2校(22.2%)であった。また、実施学年が3年生は7校(77.8%)、4年生が2校(22.2%)であった。実施時期は定期試験の時が3校(33.4%)で、その他は技術演習ごと・演習最終日2校(22.2%)、前期終了時・学年末2校(22.2%)であった。実施人数は10~50人が3校(33.4%)、50~80人が5校(55.5%)で、100人が1校(11.1%)であった。

小児看護OSCE課題1課題あたりの評価者の人数は、1人が3校(33.4%)、2人が5校(55.5%)、3人が1校(11.1%)であった。また、1課題あたりの評価項目数は、10項目未満が2校(22.2%)、10~20項目未満が5校(55.5%)、20項目以上が1校(11.1%)であった。さらに、1課題あたりの実施時間は、5~8分が4校(44.4%)、10分が3校(33.4%)、12分と15分が各1校(11.1%)であった。シミュレーターは、4校(44.4%)の大学が使用していた。OSCEの取組み規模は、小児看護学領域のみが4校(44.4%)、学部/学科/大学全体4校(44.4%)、複数領域1校(11.1%)であった。

2) 実施課題

これまでに作成した小児看護OSCE課題数は、1課題が7校(77.8%)、4課題が2校(22.2%)であった。

実施大学が公開可能と回答した小児看護OSCE課題は10題であったが、集計の結果、「おむつ交換」、「幼児のバイタルサイン測定;緊急入院時」、「輸液管理;トラブル無し」、「輸液管理;トラブル有り」、「酸素吸入」、「採血時の固定」、「尿検査(採尿バックの装着)」、「経験栄養チューブ挿入時の技術指導」、「発育相談」の9課題に集約された。

3) 模擬患者の実態

模擬患者を活用している大学は3校(33.3%)であった。そのうち2校は模擬患者を養成していた。模擬患者の年齢は、2校共に15~65歳未満であった。

研修会開催に向けたニーズ

1) 研修会への参加希望

研修会への参加希望は、93校中58校(63.0%)であった。また、希望開催時期は8月が30校(32.3%)、次いで3月が22校(23.7%)、9月が18校(19.4%)の順であった。

2) 小児看護OSCEに対する研修会のニーズ

93校中27校(29.4%)から得られ、「カテゴリ」数は6、「サブカテゴリ」数は13、「コード」は57であった。

《教育的位置づけ》

サブカテゴリは カリキュラムにおける OSCE の位置づけ であった。コード数は 5 (8.8%) で、「カリキュラムにおける OSCE の位置づけ」「カリキュラムへ OSCE を組みこむ方針」「教育プログラムの体系化」に分類された。「カリキュラムにおける OSCE の位置づけ」の代表的な内容としては、OSCE とカリキュラムの考え方を知りたい、カリキュラムの中での小児看護 OSCE の在り方を明確にしてほしいなどがあった。「カリキュラムへ OSCE を組みこむ方針」では、OSCE を取り入れるにあたってカリキュラム全体を通して事前に準備することは何か知りたい、「教育プログラムの体系化」では、教育プログラムをどのように構築していくのが知りたいなどがあった。

《課題・シナリオ・評価指標の作成》

サブカテゴリは 課題の作成、シナリオの作成、評価指標の設定、課題例 であった。コード数は 17 (29.8%) で、「課題作成」「段階的な課題提示」「課題作成の組み立て方」「事例作成時の留意点」「シナリオの作成方法」「評価方法」「評価指標作成」「評価指標の実際例」「具体的な事例設定」「他大学の課題」に分類された。「課題作成」の代表的な内容では、課題の作成方法について知りたい、課題の設定について知りたいなどがあった。「段階的な課題提示」では、どのような段階を踏んで課題を提示していくのが知りたい、「課題作成の組み立て方」では、OSCE 課題の組み立て方について知りたい、「事例作成時の留意点」では、事例を作成する際に留意することについて知りたいなどが含まれた。「評価方法」の代表的な内容は、OSCE の評価、評価方法について知りたいなどがあった。「他大学の課題」では、具体的な事例設定、他大学でどのような課題を行っているかを知りたいなどが代表的な内容であった。

《実施・運営の手順》

サブカテゴリは 現実的な実施・運営内容、予算の確保 であった。コード数は 14 件 (24.6%) で、「実践的な内容」「少ない人員での実施可能な方法」「実施可能な有効な方法」「工夫点」「予算確保」「費用」「財源」「模擬患者の時給」に分類された。「実践的な内容」の代表的な内容には、小児看護 OSCE の具体的な実践について知りたい、具体的な取り組みの実際が知りたいなどがあった。

《模擬患者の養成》

サブカテゴリは 模擬患者のリクルート方法、模擬患者の研修方法 であった。コード数は 7 (12.3%) で、「模擬患者のリクルート方法」「模擬患者の研修方法」「模擬患者のフィードバック研修」に分類された。「模擬患者のリクルート方法」の代表的な内容には、模擬患者の募集はどうしているのか、模擬患者はどのようにして得ているのかなどがあった。「模擬患者のフィードバック研修」には、模擬患者からのフィードバックにはどのような工夫をしているのが含まれた。

《教育成果》

サブカテゴリは 教育成果 であった。コード数は 3 (5.3%) で、「学生の成果」「学生の実習成果」「効果」に分類された。「学生の成果」の代表的な内容には OSCE 実施前後での学生の実習成果の差はあるのかがあった。

《研修形態》

サブカテゴリは 研修形態、対象別研修、研修会の広報 であった。コード数 11 (19.3%) で、「演習参加型研修」「職位別研修」「領域別研修」「レベル別研修」「研修会の広報」に分類された。「演習参加型研修」の代表的な内容には、グループディスカッション、授業見学、小児看護 OSCE を実践されている大学の話などが含まれた。

(2) 情報提供システムの構築

札幌市立大学小児看護学領域で OSCE のホームページ <http://scu-shouni-osce.com> を開設した。開設後、小児関連学会で広報しアクセスしてもらった。アクセスした人からホームページに対する意見の聞き取りを実施、改善点を明らかにし、修正を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1 件)

三上智子、松浦和代、小児看護 OSCE の取り組みの実態と研修会ニーズに関する調査、日本看護学教育学会誌、査読有、第 27 巻第 3 号、2018、29 - 37.

〔学会発表〕(計 4 件)

三上智子、上村浩太、松浦和代、小児看護 OSCE 研修会開催後の結果とネットワークの活用に向けた調査、日本小児看護学会第 27 回学術集会、平成 29 年 8 月.

上村浩太、三上智子、石塚直子、松浦和代、小児看護 OSCE に対する研修会ニーズ、第 36 回日本看護科学学会学術集会、平成 28 年 12 月.

三上智子、上村浩太、松浦和代、小児看護 OSCE の課題作成と評価方法、日本看護学教育学会第 26 回学術集会(交流集会)、平成 28 年 8 月.

三上智子、上村浩太、石塚直子、松浦和代、小児看護 OSCE の実態と研修会開催に向けたニーズに関する調査、日本小児看護学会第 26 回学術集会、平成 28 年 7 月.

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

該当なし

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：

発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ <http://scu-shouni-osce.com>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

三上 智子 (MIKAMI, Tomoko)
札幌市立大学・看護学部・講師
研究者番号：70452993

(2) 研究分担者

松浦 和代 (MATSUURA, Kazuyo)
札幌市立大学・看護学部・教授
研究者番号：10161928

上村 浩太 (UEMURA, Kota)
札幌市立大学・看護学部・准教授
研究者番号：00381278
(平成 29 年 9 月退職のため除名)

(3) 連携研究者

該当なし

(4) 研究協力者

該当なし